

京都大学総合博物館2021年度特別展 文化財発掘Ⅶ  
埋もれた古道を探る 関連講演会

# 中世白川道とその周辺 －京大構内の発掘調査成果から－

伊藤淳史

(京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター  
京大文化遺産調査活用部門)

# 1. はじめに

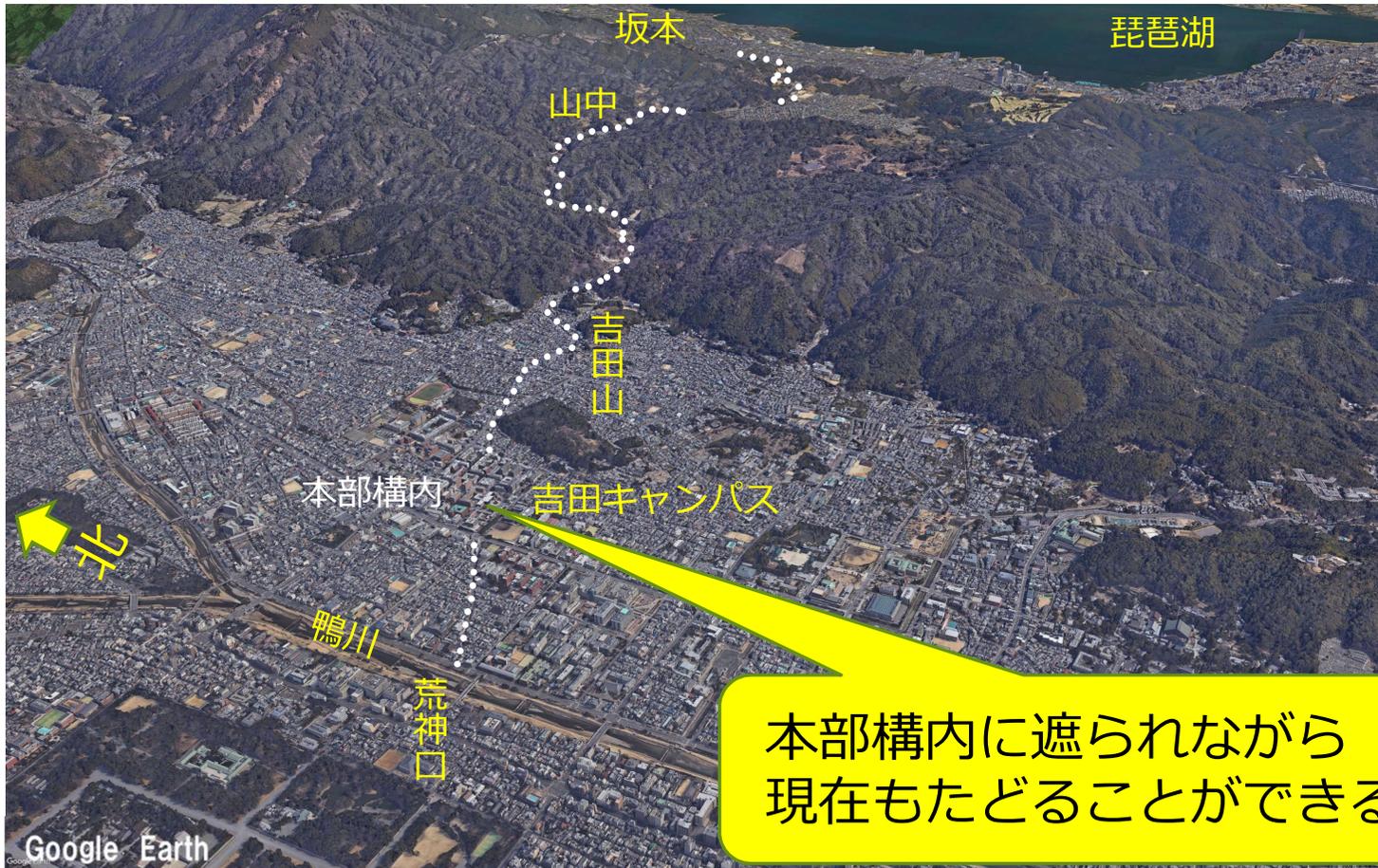
## ・対象とする時代－「中世」とは－

◎ここでは、武士の躍進する時代以降、織田信長入京ころまで、西暦では12世紀後半以降～16世紀後半あたりまで（平安時代末期～戦国時代）、としておきます。

📖 歴史学（日本史）では、白河院政期（11世紀後半）を中世の起点とする見解も、現在では有力です。

参考：桜井英治2013「中世史への招待」『岩波講座日本歴史』第6巻・中世1

## 2. 白川道とは ★京の荒神口と近江坂本を結ぶ街道



「志賀越道」  
「志賀の山越え」  
「山中越」  
などとも

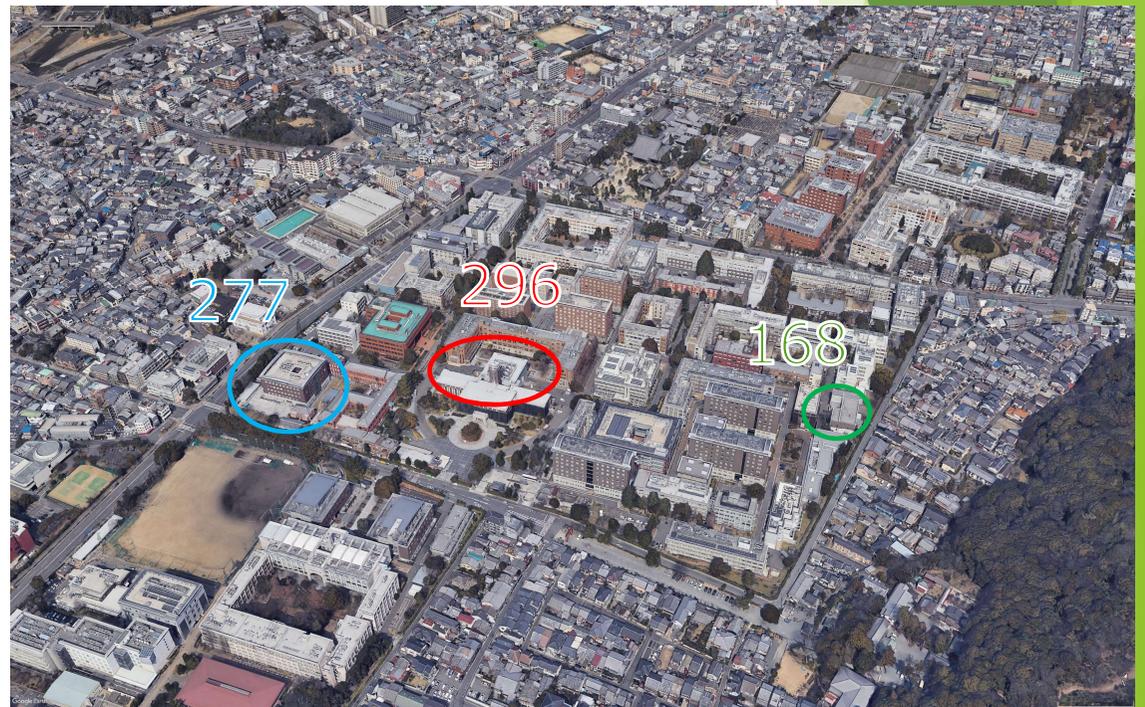
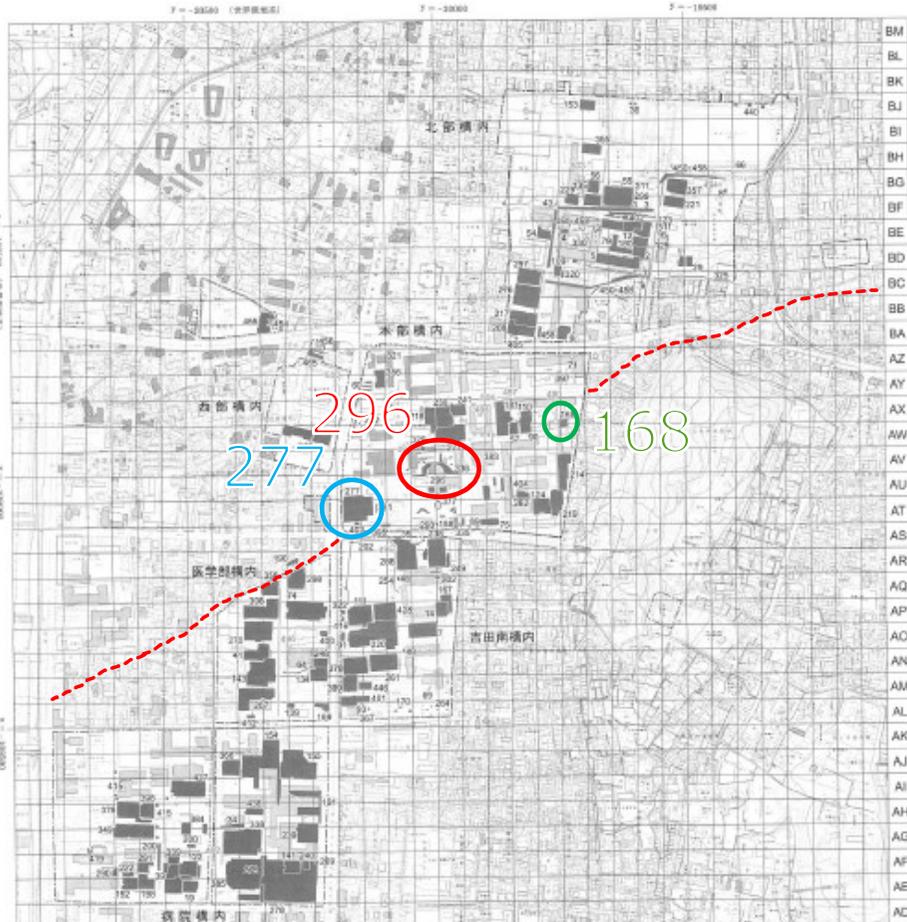


本部構内に遮られながら  
現在もたどることができる

(鴨東～湖西地域を西方上空から)

# 3. 中世白川道の発掘調査成果

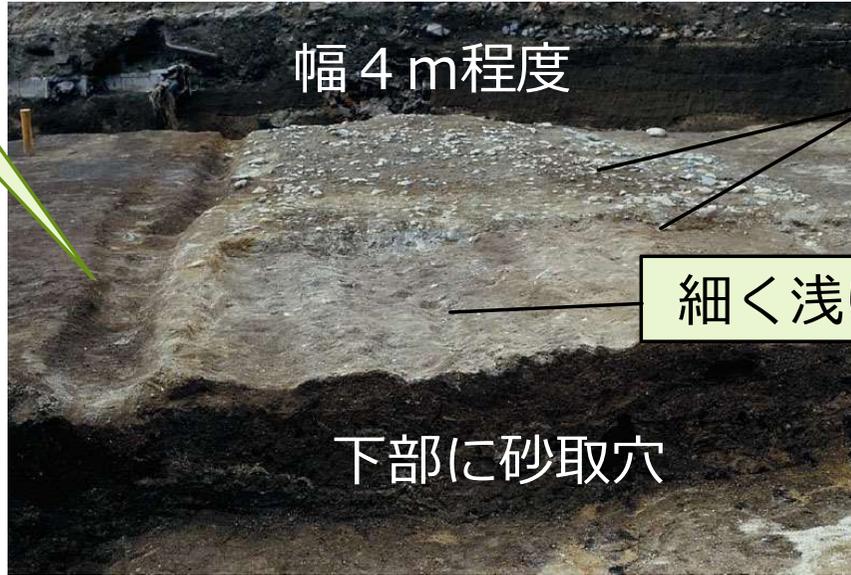
幕末の尾張藩邸設置により途絶した白川道の路面は、本部構内の発掘調査で確認される



吉田キャンパスの発掘調査地点と  
中世白川道の確認地点 (青・赤・緑)

# 168地点の調査（本部構内東端）

側溝



2面の路面

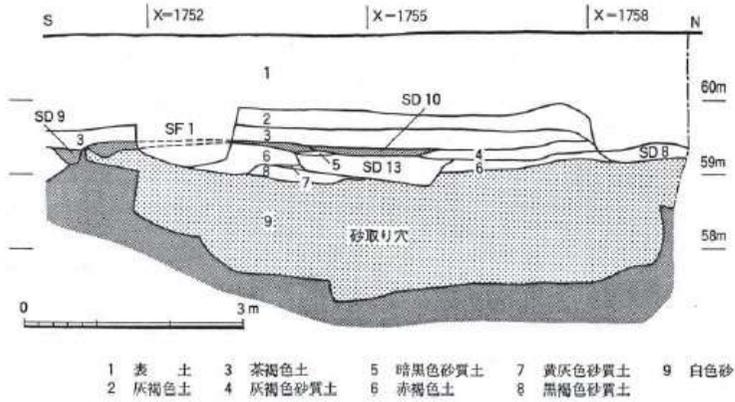
細く浅い溝状の轍

下部に砂取穴

白色の粗砂や小礫による舗装



(東から)



- 1 表土      3 茶褐色土      5 暗黒色砂質土      7 黄灰色砂質土      9 白色砂
- 2 灰褐色土      4 灰褐色砂質土      6 赤褐色土      8 黒褐色砂質土

図27 調査区西壁の層位 縮尺1/80

『京都大学構内遺跡調査研究年報1986年度』より

# 296地点の調査（本部構内中央）

白色の粗砂や小礫  
による舗装  
細く浅い溝状の轍



南から北へ基盤層を掘り下げ（切り通し）

2面の路面  
(方向軸をわずかに違える)

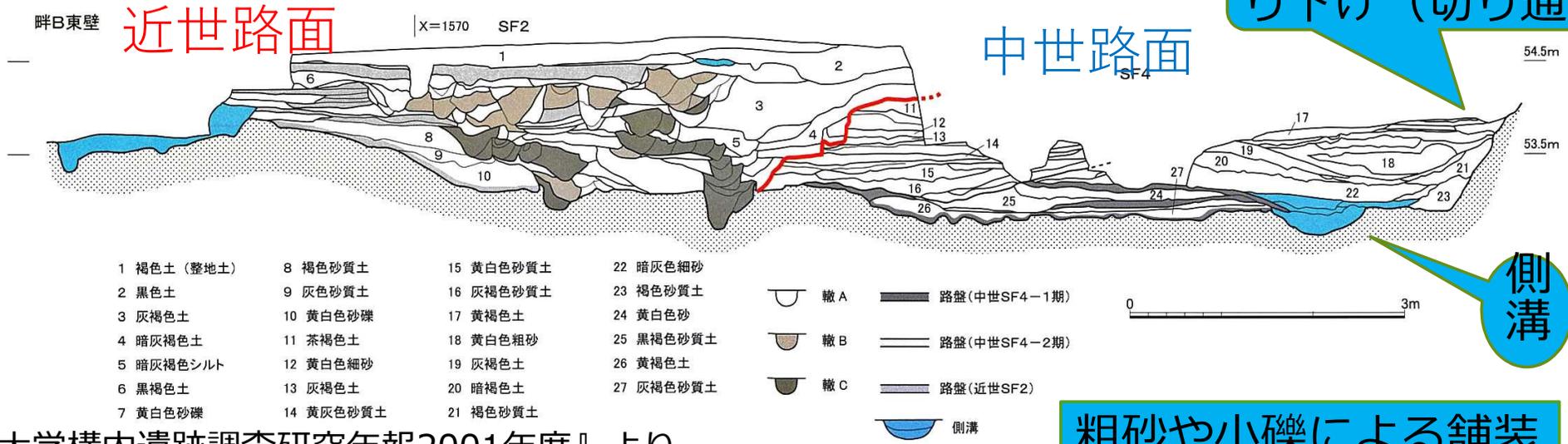
側溝

幅4m前後

(西から)

# 277地点の調査（本部構内西南）

北から南へ基盤層を掘り下げ（切り通し）



『京都大学構内遺跡調査研究年報2001年度』より



## ★中世路面のまとめ



- 地山削り出し（切り通し）による造成
- 平均して幅 4 m 程度の規模
- 側溝をともなう
- 白色の粗砂と小礫を叩き締めるような舗装
- 12世紀代（後葉には明瞭化）～15世紀ころまでは出土遺物から比定可能

本部時計台付近で北側へ道筋を迂回させている  
→地形の高まりを避けた？

## 4. 中世白川道周辺の様相

👉 文献史料で良く把握される中世吉田の活動者としては、別邸として**吉田泉殿を営んだ西園寺公経（1171～1244）**と、吉田における財産の伝領過程が詳細に知られる**藤原北家勸修寺流の一族**が挙げられる。

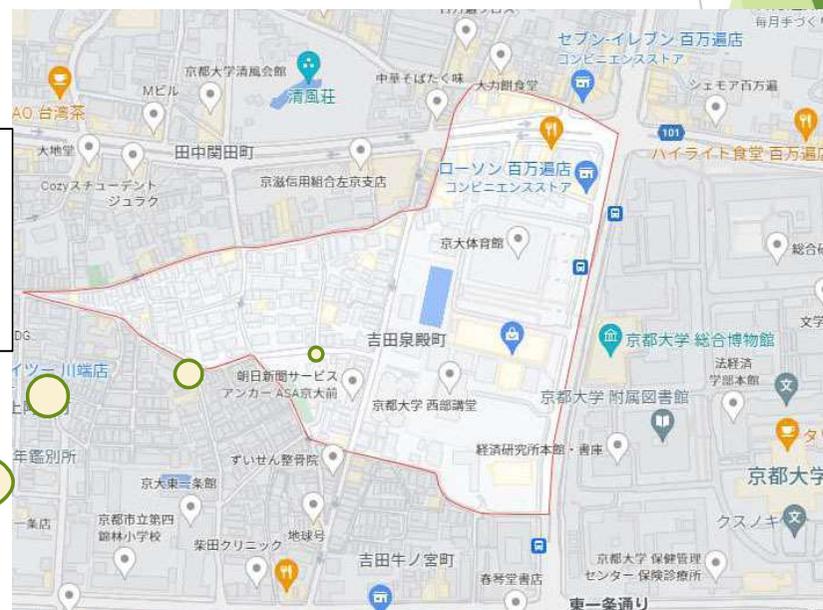
### 「吉田泉殿」について

\* 文献上の初出

「・・・吉田泉造改・・・」

『明月記』嘉禄2年（1226）5月27日条

現在の京大西部構内から西側一帯の地名「吉田泉殿町」の由来となる





方形建物跡の調査風景（北から・2008年）

☞ 西部構内の発掘調査では、13世紀代の石敷きを配した方形建物跡、色玉石を敷いた祭祀遺構、庭園に関連する景石や流路跡が見つかり、吉田泉殿の存在が裏付けられている。



景石を配した流路や高まり（西から）



色玉石を敷いた遺構（北から）





# 字「西御館」「東御館」

⇒ほぼ13世紀代で収束

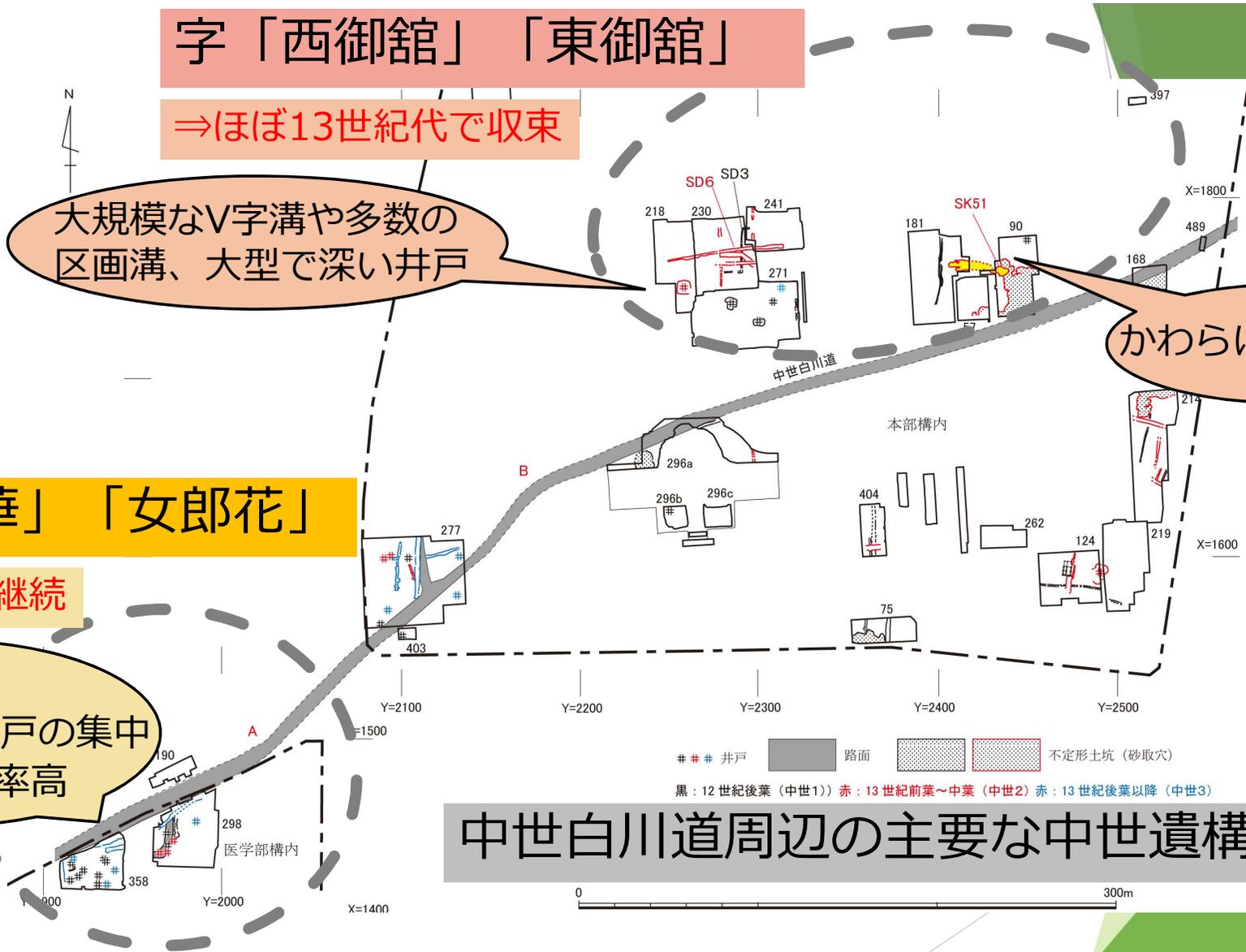
大規模なV字溝や多数の区画溝、大型で深い井戸

かわらけの大量廃棄

# 字「浄蓮華」「女郎花」

⇒14世紀へも継続

小柱穴・小型井戸の集中  
鍋・釜類の比率高



## 中世白川道周辺の主要な中世遺構

(伊藤淳史・長尾玲2022「白川道沿いの大規模廃棄土坑」『都市近郊歴史像の再構築』より)

本部構内中央～北東域の調査（字「西御館」「東御館」）



かわらけの大量廃棄（北西から）

13世紀代までに収まる大規模遺構が目立つ状況は、東亭に比定できないか？



幅・深さ2m

断面V字形の溝（東から）



深さ6m以上

大型石組井戸断面（北から）



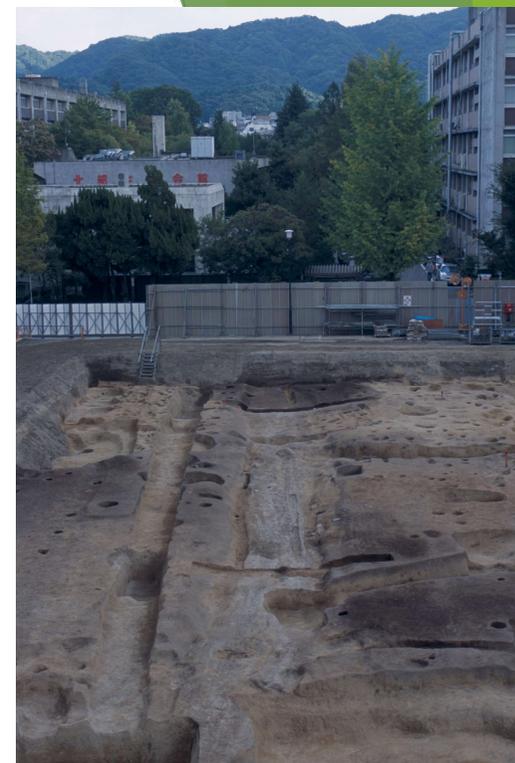
## 5. おわりに

### ●これからの課題

1. 中世～近世にかけての空白期間の検証（とくに15～17世紀代）
2. 白川道の遡源 – 古代の道はどこに？

- ・ 崇福寺への行幸（嵯峨天皇『日本後紀』弘仁六（815））ほか、多数の往来記録あり。
- ・ 「志賀の山越え」は多くの和歌に。

ご清聴ありがとうございました。



北部構内の平安中期道路状遺構（西から）

